

BLITZ



取 扱 説 明 書

BLITZ

この度は、当社ラジエーターをお買い求め頂き、誠に有難うございます。以下の注意点を正しく理解の上、お取り付けくださいます様お願い申し上げます。

(1) 安全上のご注意

はじめに

- ・ 本製品はスポーツ走行を前提とし開発、製作しており、リビルトパーツとは異なります。取り付けに際しては、細心の注意を持ってお取り扱いください。
- ・ この製品についての説明には、製品を使用する際と、自動車に装着する際の注意事項が詳しく記載してあります。良くお読みになって、正しくお使いください。
- ・ 装着車輛に、この製品システム以外の製品装着や改造を行った場合に発生する不具合に関して、弊社は責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- ・ お客様ご本人または第三者の方が、この製品および付属品の誤った使用や、その使用中に生じた故障、その他の不具合によって受けられた障害については、弊社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- ・ この製品および付属品は、改良のため予告なく変更する事があります。

警告

この表示を無視して、誤った取り扱い・作業を行うと、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される危険の状況を示します。

- ・ 換気の良い場所で取り付け作業を行ってください。
換気の悪い場所で作業を行うと、爆発・火災の原因となります。
- ・ バッテリーのマイナス端子をはずしてから、取り付け作業を行ってください。
配線のショートなどによる火災、電装部品の破損、焼損の原因となります。
- ・ コネクタを外す場合、ハーネスを引っ張らず、必ずコネクタを持って取り外してください。
ショートなどによる火災、電装部品の破損、焼損の原因となります。
- ・ この製品に異音・異臭などの異常が生じた場合には、製品の使用をすみやかに中止し、販売店または弊社までお問い合わせください。
そのまま使用すると、感電や火災、電装部品の破損の原因となります。
- ・ この製品の取り付け時に、エンジンルーム内の電気配線や配管類を傷つけないよう注意してください。
ショートなどによる火災、電装部品・エンジン・車輛の破損の原因となります。
- ・ 部品交換は自動車が不安定な状態で作業すると危険です。必ず自動車作業専用リフトを使用して、安全に作業してください。
【二柱式リフトをお勧めします】
やむをえずガレージジャッキを使用する場合は、必ずリジットラック(馬、安全スタンド)を併用して安全に作業してください。車載ジャッキでの作業は危険なので絶対に行わないでください。

注意

この表示を無視して、誤った取り扱い・作業を行うと、人が軽傷また中程度の傷害を負う可能性が想定される危険な状況および物質損害の発生のみが想定される状況を示します。

- ・ この製品の取り付けは、必ず専門業者に依頼してください。
取り付けには専門の知識と技術が必要です。
- ・ この製品を装着前に落下させたり、装着時に無理な力を加えないでください。
作動不良や空気漏れの原因になります。
- ・ この製品の加工・分解・改造は行わないでください。
事故、火災、感電、電装部品の破損、焼損の原因となります。
- ・ この製品の取扱いは慎重に行ってください。落としたり強いショックを与えないでください。
事故、火災、感電、電装部品の破損、焼損の原因となります。
- ・ エンジンルーム内の温度が下がってから、作業をはじめてください。
エンジン本体、ラジエーター、排気関係の部品は高温になり、火傷の恐れがあります。
- ・ 定期的に点検を実施し、十分に注意してご使用ください。
この製品は耐久性を考慮して、厳選された材料を使用し、厳重な社内品質管理のもとに製造されていますが、車両の使用条件などにより、耐久性が落ちたりする事があります。
- ・ 取り付け作業のために一時的に取り外す純正部品は、破損・紛失しないように大切に保管してください。
当社は取り付け作業による物的損害の責任を負うことはできませんので、慎重に作業を行ってください。
- ・ ボルト・ナット類は、適当な工具で確実に締め付けてください。
必要以上に締め付けを行うと、ボルトのネジ部が破損します。
- ・ 本製品はアルミ製品でエンジン始動中、始動後は大変高温になるので素手で触れないでください。

重要事項

- ・ この製品はノーマル車輛を基準に製作されています。
ノーマル車輛以外に取り付けた場合は、製品の機能・性能及び安全性・耐久性について保証いたしかねます。
- ・ 製品装着時は、異物が混入しないよう、十分に注意をしてください。
異物等が混入すると最悪の場合エンジン破損の原因になる場合があります。
- ・ 純正部品の取り付け、取り外しの作業はメーカー発行の整備要領書をよく読んでからおこなってください。
整備要領書がお手元にない場合はメーカーにてご購入ください。
- ・ 走行前には、冷却水の漏れがないか点検を行ってください。漏れのある状態での走行は、車輛エンジン破損等の恐れがあり危険です。

(2) 取り付け作業にあたって

- ・ 当社商品は純正形状を採用しており、基本的には純正品に準じた取り付け方法となっておりますが、タンク部、コア部の厚みが増す為、一部の車輛においては、ラジエーター本体がA / Cパイプなどに干渉するケースがあります。その場合にはシュラウドを加工し、干渉しないようお取り付けください。
- ・ 一部の車輛において、純正品とタンク部の形状が異なるため、エアクリーナーへのエアダクト等が取り付けできない車輛があります。その場合には、エアダクトを取り外すか、加工をして取り付けを行ってください。
- ・ 純正ラジエーター、弊社ラジエーター共に、上下のラバースマウントにより車輛に固定されております。よって絶縁状態になっており、通電すると電触漏れが発生します。電動ファンなどの帯電部品を装着される場合は必ずアースをお取りください。
- ・ 事故後の車輛等に取り付けの場合、ファンブレードとラジエーターとのクリアランスが少なくなっている車輛があります。取り付けの際、干渉する、もしくは干渉する恐れがあると考えられる場合にも取り付けは行わないでください。コアを破損することがあります。
- ・ 当社商品は純正形状のため、ラジエーターの取り付け位置に変わりはありませんが、車輛の個体差、ラバーの経年変化、商品誤差等により固定部品とラジエーターに隙間が開いてしまい、ラジエーターの固定が不安定になる場合があります。その場合には、ラバーを新品にして頂くか、ラジエーター上側のラバーの間にワッシャーを挟んで固定してください。
- ・ ドレンボルト、エア抜き口の締め過ぎによりボルト及びベースが破損する場合があります。手締めで締めた後、1 / 4回転程度に増し締めを行ってください。取り付け後には必ず締まっている事を確認してください。

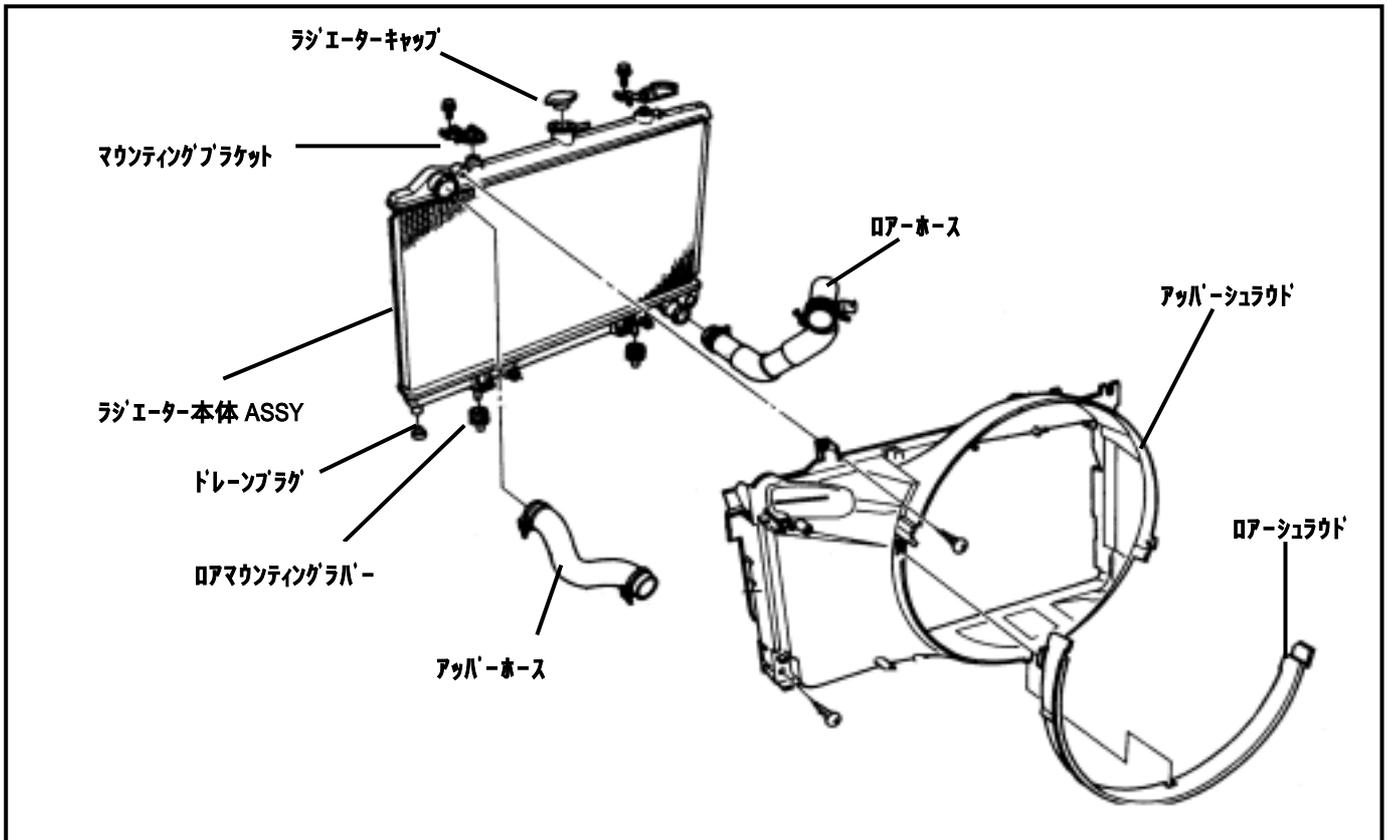
(3) 商品の特徴



- ・ 大容量2層タイプの超軽量オールアルミタイプ。
- ・ 新設計のアウトターフィン&チューブで前置きI / C装着車でも高効率な熱交換を実現。
- ・ 水温計のセンサー取り付けに便利な1 / 8PTサービスホール付き。
- ・ 純正ラジエーターと交換するだけ。そして無加工ボルトオンの簡単装着(一部車種を除く)。
- ・ AT車専用はATFクーラーを内蔵。もちろんATFクーラー部もオールアルミ製。
- ・ サイドタンクパフ研磨、アルミアルマイト仕上げドレンボルト、ブリッツレーシングラジエーターキャップを標準装備し、性能のみならずクオリティーも追及。

(4) ラジエーター脱着手順

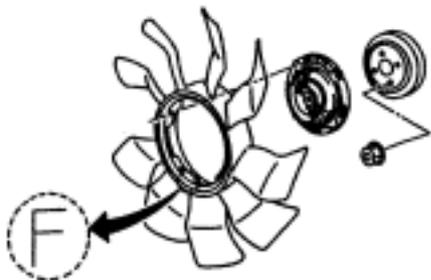
PS、RPS13の分解構成図



- 1 バッテリーのマイナス端子を外す。
- 2 アンダーカバーを取り外す。
- 3 ラジエータードレインプラグを外し、ラジエーターキャップを外して冷却水を抜き取る。
エンジンルーム内が冷えていることを確認してから作業を行ってください。水温が冷えていないと、ラジエーターキャップを外す際、冷却水が噴出し、やけどする恐れがあります。
- 4 リザーバータンクを取り外し、冷却水を排出する。
- 5 ラジエーター、アッパーシュラウド上部にエアダクト、インテークパイプ、配管、配線等がある車輛は取り外す。
- 6 ラジエーターアッパーホースを取り外す。
- 7 ラジエーターロアホースを取り外す。
- 8 A/Tオイルクーラーホースを取り外す。(AT車のみ)
A/Tオイルクーラー配管側にATFが流失しないようプラグ栓をしてください。
- 9 水温センサーハーネスコネクター、電動ファンハーネスコネクター等がある車輛は、取り外す。
- 10 ラジエーターマウンティングブラケット(左右)を取り外す。
- 11 ラジエーターロアシュラウドが取り外しできる車輛は、フック(左右2箇所)を押しながら解除し、ツメを外して取り外す。

12 ラジエーターASSYを取り外す。

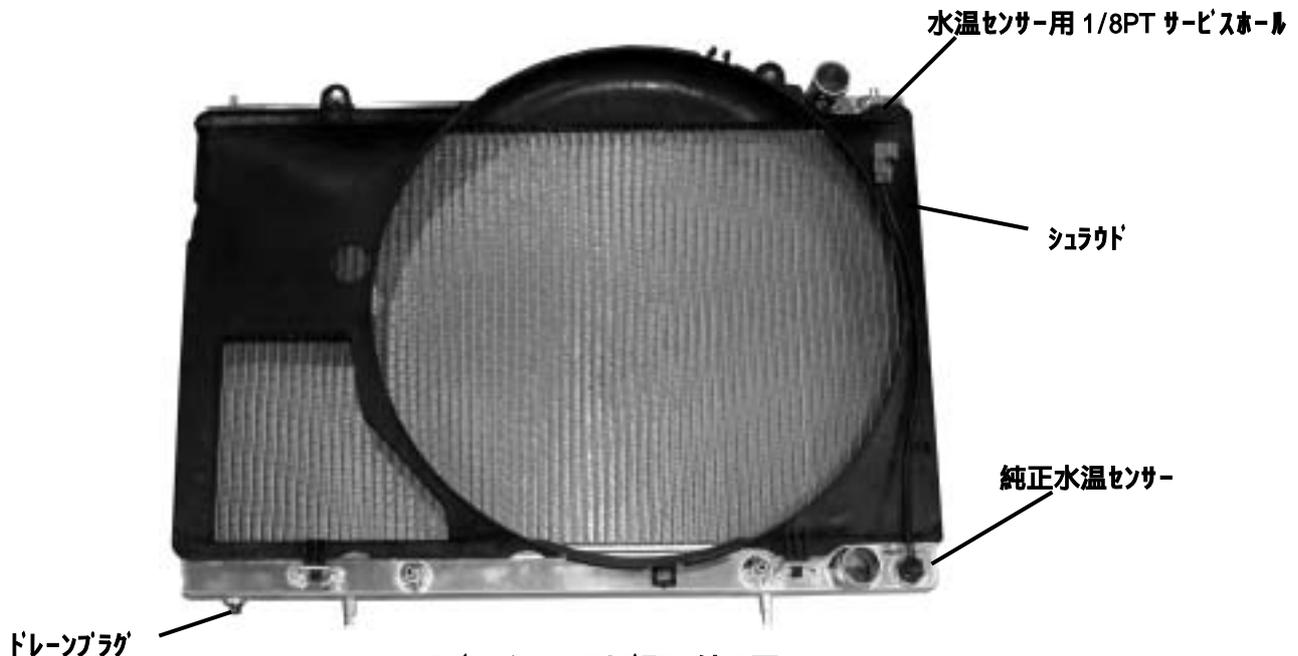
ラジエーターコア、フィンに傷をつけないよう注意して取り外す。



スカイライン系にはロアシュラウドがない車種もありラジエーターを取り外しにくい車種があります。その場合、ファンベルトを緩め、ウォーターポンププーリからクーリングファンを外し(M6ナット 4個)ラジエーターASSYと一緒に持ち上げ取り外してください。

13 ラジエーターからラジエーターシュラウドを取り外す。

14 ラジエーターに純正水温センサー等が付いている車種は、取り外す。



ECR33ラジエーターシュラウド取り付け図

15 純正ラジエーターから取り外したシュラウド、純正水温センサー(一部の車種)等を当社レーシングラジエーター LMに移植する。

1/8PTサービスホールに水温センサーを取り付ける場合、シュラウドに干渉してしまう場合には干渉しないよう加工をしてください。

上図 BCNR33、ECR33、WGNC34、ER34は共通品ですがER34等には純正センサーが付いていない為、出荷時にプラグが付いています。車種に純正水温センサーが付いている場合にはプラグを外し、純正水温センサーを移植してください。付いていない場合にはそのままプラグを外さず、締まっている事を確認してください。

純正のロアマウンティングラバー等を忘れずに移植してください。

16 当社ラジエーターをエンジンルームに取り付ける。

エンジンルームに取り付ける際、ラジエーター、フィンに傷をつけないように注意してください。

コアの厚みが増していますので、シュラウドがエアコンパイプ、フレーム等に干渉してしまう(干渉してしまう恐れがある)場合には、干渉しないように加工してください。

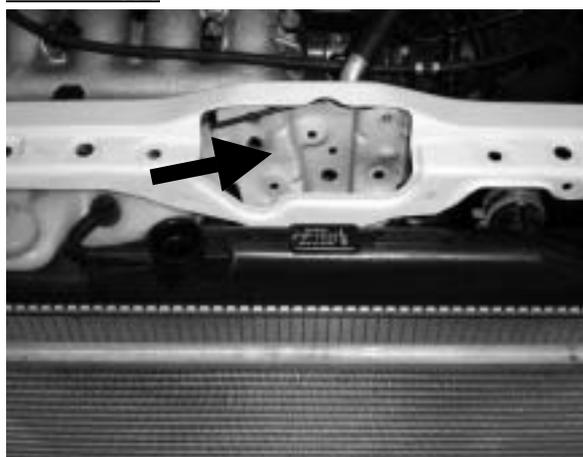
コアの厚みが増しているため12項のクーリングファンに接触し取り付けにくい車輛があります。その場合12項を参考に、クーリングファンを取り外し、ラジエーターASSYと一緒にクーリングファンをシュラウド内に寄せエンジンルームに取り付けを行ってください。

17 その他は取り外しと逆の手順で取り付けする。

取り扱い説明書に載っていない車輛は上記手順を参考に脱着作業を行ってください。

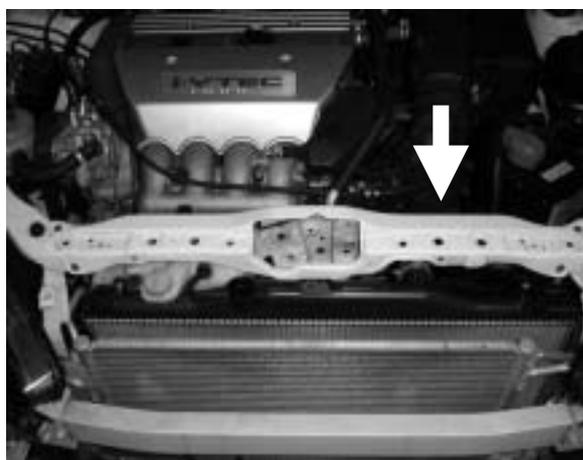
その他車種取り付け時の注意点

DC5の場合



1 フロントバンパーを取り外してください。

2 左図を参考に、矢印部にあるボンネット(フード)ロックを取り外すか、逃がしてください。



3 左図矢印部のフレームを取り外してください。

配線を断線させたり傷つけないよう注意して作業してください。



4 左図の状態になりましたら、ラジエーター脱着手順を参考に作業してください。

フードロックを取り付ける際、調整が必要になります。取り付け後、ボンネットがしっかり閉まるか確認してください。

Z33の場合

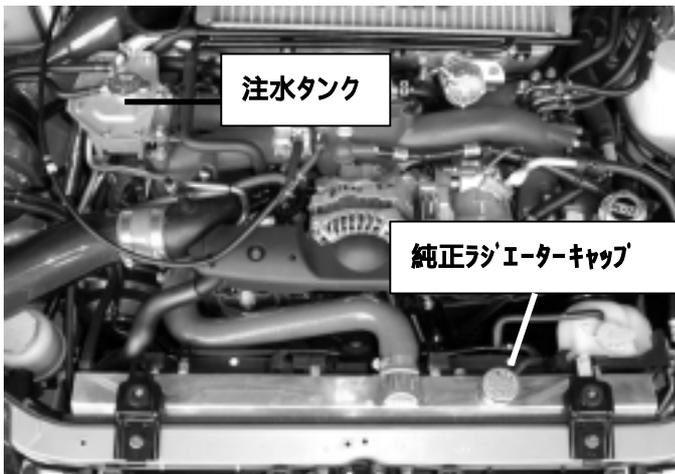
冷却水を抜いた後、スペースがあまり無いので、はじめに電動ファンのみを取り外してください。その後、マウンティングブラケットを取り外し、ラジエーターをフリーにします。次にコンデンサーがラジエーターに固定されていますので、コンデンサーをラジエーターからずらして下さい。(上側 ボルト2箇所、下側 ツメの差し込み2箇所)。その後ラジエーターを車輦より取り外してください。

EK/EG 前面タイプの場合

EK/EG車輦は、運転席側にラジエーター、助手席側に、コンデンサーと分割されています。前面タイプを取り付けする場合、コンデンサーも取り外し、空いたスペースに、当社ラジエーターを取り付けてください。

前面タイプをお取り付けする場合、エアコンが効かなくなります。

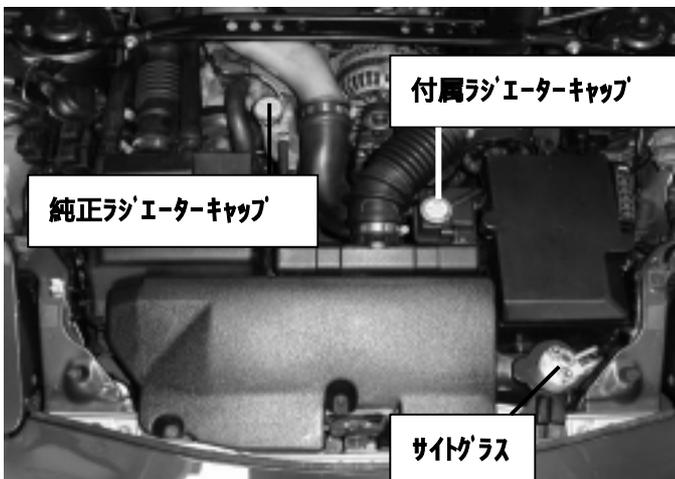
GDB C型の場合



GDB C型

左図を参考に、GDB C型の車輦は当社ラジエーターに純正のラジエーターキャップ(丸型)を取り付け、付属のラジエーターキャップは注水タンク側に取り付けてください。

FD3Sの場合



FD3S

FD3Sの場合、ラジエーター上にあるエアクリナーボックス、インタークーラー、バッテリーを取り外してください。その場合にインタークーラーダクトがA/Cパイプ途中のサイトグラスの有るタンク部にはまっている為、取り外せません。A/Cパイプを潰さないよう曲げながら外すか(エアコンガスが漏れないようにする。)もしくはインタークーラーダクトを加工して取り外してください。

ラジエーターキャップ取り付けは左図を参考にしてください。

当社レーシングラジエーターLMには127hpa(1.3kg/cm²)のラジエーターキャップが標準で付属されておりますが、純正よりもホースに負荷がかかります。ラジエーターアップパーホース、ロアホース、その他ゴムホース類が劣化している場合には取り付けを行わないでください。冷却水漏れ、ゴムホース類破裂の恐れがあり、エンジン破損につながります。劣化している場合には、純正のラジエーターキャップをお取り付けください。

(5) 冷却水の注入、エア抜き

- 1 ドレインプラグ、クランプの締め付けが確実に確認する。
- 2 キースイッチをONにし、ヒーターコントロールの設定温度をHOT側のMAXにする。
- 3 エンジン側にエア抜きプラグが付いている車輛は取り外す。
- 4 冷却水をラジエーターのキャップ口元いっぱいまで注入する。
ラジエーターインレットホースおよびラジエーターアウトレットホースを手で数回圧迫し、ラジエーター注入口の水位が下がる様であれば、追加注入してください。
エア抜きプラグの有る車輛は、途中でエア抜きプラグから冷却水が噴出したらプラグを閉じてキャップ口元いっぱいまで注入してください。
- 5 リザーバタンクの“MAX”ラインまで冷却水を補充する。
- 6 ラジエーターキャップを閉じてエンジンを始動し、サーモスタットが開弁するまでアイドリング回転を保持する。
ラジエーターアップパータンクは非常に高温になり、火傷の恐れもありますので触らないでください。
- 7 純正水温計が中央を超えていることを確認し、ラジエーターローアホースを手で触って温水が流れていることでサーモスタットの開弁を確認する。
- 8 サーモスタットの開弁を確認後、2500rpmで10秒間の空吹きを3回行う。
水温の上がり過ぎに注意すること。
- 9 エンジンを停止する。
- 10 冷機後、ラジエーターキャップを外し、冷却水の液面を確認する。液面が下がっている場合は6項以降の作業を繰り返す。
- 11 液面が下がらなくなったらリザーバタンクの“MAX”ラインまで冷却水を補充する。
- 12 エンジンを始動し、アイドリングから3000rpmまで回転を上げ、インスト下部より、ヒーターコア流水音がしないことを確認する。流水音がする場合は、6～11項の作業を液面が下がらなくなるまで繰り返す。
- 13 AT車の場合は、ATFをレベルゲージの範囲内に収まるよう補充する。

以上で、本キットの取り付けは終了です。

(6) 取り付け後の確認

- 1 パイプ、ホース等配管及び配線に間違いがないか再度確認してください。
- 2 ボルト、ナット類の締め忘れがないか確認してください。
- 3 冷却水、ATF等の漏れ、にじみがないか確認してください。
- 4 再度リザーバタンクの“MAX”になっているか確認してください。
- 5 一度冷えてから再度冷却水量を確認してください。

(7) 最後に！

【作業の方へお願い】

- ・ 作業が終了しましたら、本取り扱い説明書は必ずお客様に返却してください。
- ・ お客様に、同梱されている“CAUTION PLATE”を渡していただき、エンジン暖気後にラジエーターアッパータンクを触るとやけどの恐れがあることを伝え、プレートを貼るよう指示してください。

【お客様へ】

- ・ 商品に同梱されています“CAUTION PLATE”はラジエーターが冷えているときに、ラジエーター上面のアッパータンクに部に貼ってください。

製品についてのご相談先

製品についてのお問い合わせは、お電話またはFAXにて下記宛てにお願いします。

連絡先 (株) ブリッツ TEL 0566-79-2200
住所 愛知県安城市高棚町大道40-1 FAX 0566-79-2070

製造・発売元	株式会社 ブリッツ
取扱説明書番号	18150001
初版作製年月日	2003.6.5

BLATZ